

中等習字教科書

下

K220.72
19
3

K220.72

19

3

中 等



習字教科書

緒言

一本書ハ中學及ゼコレト同程度ノ諸學校教科用書ニ充ツル目的ヲ以テ編纂セシモノナリ

一本書ノ材料ハ國語及ゼ漢文科トノ連絡ヲ保タシメンガ爲メニ古人ノ格言詩歌等ヲ採輯シ練習ノ傍諷誦シテ興味ヲ感セシメ學生ヲシテ倦怠ノ念ナカラシメンコトヲ勉メタリ

一近來中學生ノ文字持ニ細字ノ拙劣ヲ責ムルノ聲到ル處ニ高シ本書ハ夫等ノ弊ヲ救ハンガ爲メニ舊來ノ教科書ニ比シテ練習文字ノ數ヲ多クシ持ニ隔週

ニ一回細字ノ練習ヲ加ヘタリ教授者ハ生徒ノ自宅又ハ適宜ノ時間ニ於テ之ヲ課シ反復習熟セシメンコトヲ欲ス尙細字ノ速寫ヲ巧ニセンガ爲メニ文稿ノ淨寫ヲ始メ諸答按ノ淨録ニ注意セシメ本書練習材料ノ外他ノ教科書等ヨリ適宜ノ材料ヲ採リ本書ノ書風ヲ學ビテ習熟セシメンコトヲ望ム

一本書ハ中學校教授細目ニ準據シテ上中二卷ヲ楷行トシ下卷ヲ行草ニ体トシ毎回課スルニ左右二頁ヲ以テシ隔週毎ニ淨書セシムルモノトス

編者識

道接聖賢韓愈學

詩關風教杜陵心。

陽氣の發するところ
金石も亦透る精神

一たび到らば何事か
成らざらん。
朱子

送熊澤子歸備前

中江藤樹

舊年無幾日、何意上旗亭、送汝雲霄

下三

器羞吾犬馬、齡梅花鬢邊白、楊柳眼中青、惆悵滄江上、西風教客醒。

道通天地有形外

思入風雲變態中。

登鶴鶴樓

王之渙

白日依山盡
黃河入

下五

海流欲窮千里目
更上一層樓。

古戦場

武夫の志もす屍をとりて

あまのこがたしむらからうのふ

やうき

嵐

作濃なるすののきほつと死に就るの

つはふりたあふくく嵐にまよ

富貴も淫するに能はず
貧賤も移するに能はず

下
七

威武も屈するに能はず
此れ之れを大丈夫といふ。孟子

失題

失名

江水三千里家書十

下八

五行行々無他語唯
道早歸家。

題兒島高德題詩櫻樹圖

齋藤監物

踏破千山萬嶽烟、鸞輿今日到何邊、短簔直入虎

下九

狼窟、一匕深探鮫鱈淵、報國丹心嗟獨力、回天事
業奈空拳、數行紅淚兩行字、付與櫻花奏九天。

書を讀むは常に沙を淘して
金を採ふが如くすべし取る

は其廣きを取し擇ぶ
は其精けきを取す。伊藤仁富

靜觀思

李吉白

林可看月光
疑是地

下十一

上霜卷頭
望山月低
影思故鄉。

地球と五國の教がからずして、各その宗教言語習俗を
異にして種々異人は等しく是れ回教の人となれば、

之と交るには苟も推言厚信の別ある可らず、自からる大
に於て他國人を蔑視するは福主自身の名に及するものなり。

学者を力に奉ずるに
金玉の如く捨るべし激に

瀬失あらば以て天下の玉
寶となすに足らざる。

池田孝庵

詠史

秋山玉山

昨日割一氣今日割

下十四

一城割到壯士腸
蕭子名名空。

筑方城中化

廣漱法空

伏敵門既浪拍天，當時築石自依然。之者沒海泥

下十五

猶在，郭后征韓子，久傳城郭影浮香。浦月弦歌聲
隱暮河煙弄，牙弓象君看取，而才。毛楊黎實船。

与系植坂部武庸别 细井廣海
結髮為奇士 子室那

是言雖可情 曾亦鑑
此一劍存。

餽春

松本奎堂

形迹春陶變問春

下十七

不語法水与落笔
然背人去。

まじりておのゝこゝろをいかにまじりていかにわがぢやうに歌よみが
くたなげしむる人けいんていおのゝこゝろをいかにわがぢやうに歌よみが

るをよそに何かはるからんといふおのゝこゝろをいかにわがぢやうに歌よみが
ほろろことながらなほあがずうちあはぬうちぞすまや。

はなをみればすまひもて人の心の通ひ
見ゆるならむなればはたむかしより

あかへてみればしむるはかた
つしまふらして

題新梁園 新井白石
流水人俱去 人間此

曲 忽聽梁塵 有所惜 既
遇一人 書。

雜詩

陶淵明

人生無根蒂，飄如陌上塵。
分散逐風轉，此已非為力。

下
廿一

落此為足矣，何必骨肉親。
已矣，斗酒解此愁。
盛年不重來，百難再晨。
及爾當勉勵，歲月不待人。

風來疎竹風子多休之留
却雁度空潭雁去為潭不

下
北
二

百影故君子少來為心好
現事去為心隨空。
菜根譚

欲出新聲

悟清聲

男子立志出鄉關，學成爲國

來死，不達還埋骨，何敢墮蓬
地。人分利，雲有青山。

遙かにそよ松風いそふたほたるなりくるたふさふさ
ぢかおぼろしけんしけんまのきこゆりしきまわれ行くは音の
とまりかまいたのまきやまかーらるゝとまきしきりほおさら

つやふらあゆみのれがまゆいゆい月おぼれておちるとけさの居
たるなりけりいそふらわしむらむらすかたてふ葉垣のた
碧しきあすらふほおぼろかくる月も心あけげなり。

2220.17

日本書紀卷之六



下廿五

不許複製

明治三十九年十一月十日印刷
明治三十九年十一月十五日發行

編書者 玉木本三郎
大阪市南區安堂寺橋通四丁目百五十八番屋敷

發行者 吉岡平助
大阪市東區備後町四丁目七十八番屋敷

發行者 吉岡平助

發行者 繁本龜治
大阪市南區安堂寺橋通四丁目二百卅三番屋敷

賣捌所 吉川弘文館
東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

同 篠崎參文舍
東京市京橋區北旗町二番地

上中下各册 定價金貳拾錢

